

令和8年度学校経営計画

1 目指す学校像「信頼され、ウェルビーイングを実現する学校」

- 自ら学び「社会に生きる確かな力」を身につける学校
- 保護者や地域から信頼され共生社会の実現に向けてその使命を果たす学校
- 教職員が夢を持って学校経営に参画しウェルビーイングを実現する学校

2 教育目標 「 未来に向かって、よりよく生きるために 」

豊かな心と健やかな体、たくましく生きる力を育てる。

3 目標具現化の柱

【楽しく学び思考力を高める授業づくり】豊かな

ア 視覚障害教育の充実と基礎学力・課題解決力を身に着ける授業実践

イ 効果的な学びのための ICT 機器・情報等活用力を育てる授業づくり

【安全で安心な学校生活】健やかな

ウ 健康・栄養に関する知識と理解を深め体力向上につながる活動の充実

エ 防災学習の充実及び防災体制の見直し

オ 仲間と協働し達成感を共有する経験及び自己肯定感を高める活動の充実

【成長を支える支援体制】たくましく

カ 視覚障害教育の専門機関としての役割の充実とセンター的機能の発揮

キ キャリア発達に必要な力を培う学習の推進

ク 交流及び共同学習や地域の資源を活用した活動の充実

ケ 保護者、地域、関係機関に対する教育活動の発信

コ 業務の効率化を進め、教職員が協働的に業務を遂行できる職場づくり

4 本年度の取組（重点目標はゴシック体）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
楽しく学び思考力を高める授業づくり	ア 視覚障害教育の充実と基礎学力・課題解決力を身に着ける授業実践	・触察や概念形成、言語活動を重視した授業づくり	・個々の見え方に応じた支援により、基礎学力をつける授業づくりをする。	各学部 研修課 自立活動課
		・専門家からの学びを共有し授業及び指導に生かす取組	・視能訓練士や歩行訓練士の指導助言を受け手立てを講じたり教材づくりに生かしたりする。	
		・幼児児童生徒理解に基づいた教育課程の編成 ・個別の指導計画作成アシスト AI の活用とチームでの話し合い	・児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程を編成し、適切かつ効果的に実施する。 ・個のニーズにより即した指導計画の作成により、学習の成果を的確に捉え、評価し改善につなげている。	各学部 教務課
	・視覚特別支援学校の授業づくりの専門性の向上のためのグループ研修および一人一授業公開 ・他校の研修会や学習会に参加する機会の設定	・視覚障害教育の専門性が高まり、日頃の授業実践および生活支援に活かしている。	各学部 学科 研修課	
	イ 効果的な学びのための ICT 機器・情報等活用力を育てる授業づくり	・ICT 機器やアプリ等の研修会と学習環境の整備 ・音声図書や点字図書、電子書籍等を活用した新しい読書活動の環境づくり	・幼児児童生徒一人ひとりの実態に応じて ICT 機器の活用をしている。 ・複数の読書媒体や図書活動に触れることで本に親しむことが増えた。（幼児児童生徒）	図書情報課
	ウ 健康・栄養に関する知識と理解を深め体力向上につながる活動の充実	・自身の健康や生活習慣を見直す保健指導 ・「心の健康」への関心を高める工夫（月1回の「ひま	・幼児児童生徒の心身の健康を把握し、実態に応じた指導をする。 ・困ったときや不安なときに教師や家族、身近な人に相談できる。（幼児児	保健課 寄宿舎

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
		わりタイム」) ・ヒヤリハットの迅速な共有	童生徒) ・未然防止の観点から学習環境を整え手立てを講じている。	各学部
安全で安心な学校生活	ウ 健康・栄養に関する知識と理解を深め体力向上につながる活動の充実	・発達段階に応じた触察体験と食育授業の充実 ・食に関する積極的な情報発信（ちょこっと食育充実等） ・視覚障害者スポーツを含めた体力向上につながる実践	・食について理解を深め、食材の栄養や食事に対する関心が高まる。（幼児児童生徒） ・自分の体力に合った運動を知り、仲間と共に楽しみながら体づくりをする。	保健課 寄宿舎 各学部
	エ 防災学習の充実及び防災体制の見直し	・様々な災害に対応した防災学習や避難訓練の実施と防災体制の見直し ・地域や保護者を巻き込んだ災害への備えの確認と準備	・避難時や緊急時の対応を理解し、行動できる。（教職員・幼児児童生徒・保護者） ・視覚障害者の避難における課題を地域や保護者と共有している。	各学部 生徒指導課 寄宿舎
	オ 仲間と協働し達成感を共有する経験及び自己肯定感を高める活動の充実	・主体性と互いを認め合う力を育成する学級活動、部活動、生徒会・委員会・自治会・舎生会活動等の充実	・人権意識が高まり、相手の人権を尊重したかかわりができる。 ・自分の得意なことや仲間のよいところに気付くことができる。（幼児児童生徒）	各学部 生徒指導課 寄宿舎
	カ 視覚障害教育の専門機関としての役割の充実とセンター的機能の発揮	・専門機関としての役割の整理と啓蒙活動の継続 ・教育相談、視覚障害支援研修会、福祉体験学習、講演等外部要請への積極的な対応	・外部専門家や教育機関と連携を取り、相談者に必要な情報や支援を提供する。 ・対象者に応じた内容で、視覚障害やその支援方法について理解推進活動をする。	教育支援相談課
成長を支える支援体制	キ キャリア発達に必要な力を培う学習の推進	・自己の良さや将来を考えるためのキャリアパスポート等の活用 ・卒業生や企業、施設と連携した進路学習、職員研修の実施	・自分の強みや好きなことが分かり、次の学部や将来につながる自分の考えを伝えることができる。（幼児児童生徒） ・進路先の情報やサービス等について理解し、幼児児童生徒の発達段階に合った支援を行っている。	進路指導課 各学部 寄宿舎
	ク 交流及び共同学習や地域資源を活用した活動の充実	・学校間交流や「交流籍」を活用した交流及び共同学習の充実 ・地域の施設や人材を活用した学習活動の推進	・交流及び共同学習における個々の目標を明確にして取り組む。 ・地域貢献や地域資源を活用した学習に主体的に取り組んでいる。（幼児児童生徒）	各学部
	ケ 保護者、地域、関係機関に対する教育活動の発信	・広報活動を目的としたイベント（六葵祭）や教育活動の実施 ・YouTube やホームページ、インスタグラムでの魅力発信	・広報活動をとおして視覚障害教育の理解と推進を図る。 ・ホームページ等で本校の教育活動の様子が理解できる。（保護者及び外部の意見）	各学部 教育支援相談課

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
	コ 業務の見える化と効率化を進め、教職員が協働的に業務を遂行できる職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌、委員会等の業務の見直しと重複や属人化の解消 業務改善のアイデア募集（あおいタイムの活用） 個別の指導計画作成アシストAIの運用 	<ul style="list-style-type: none"> 各担当部署で一つ以上改善できた。 働きやすい環境で自分の意見や考えを安心して発言できた。 生成AIの活用により業務に関する話し合いや授業準備の時間が昨年度より増えた。 定時退勤日に17時30分に退庁できた教職員90%以上 	各学部 各分掌 事務部 寄宿舍